

おいしさを笑顔に

KIRIN

復興応援

特集

キリン
絆プロジェクト

おめでとう!
なでしこジャパン



キリングroupはこれからも
サッカー日本女子代表を
応援します。



ハーモニア

HARMONIA

©J.LEAGUE PHOTOS.
2011年6月18日 国際親善試合
なでしこジャパン先発メンバー

キリンホールディングス株式会社
第173期 中間株主通信
2011年1月1日から2011年6月30日まで



中期経営計画の2年目として、 国内外で質的拡大に向けた取り組みを 強化しています。

代表取締役社長 **三 光 占 二**

このたびの東日本大震災によって被害を受けた皆様に謹んでお見舞い申し上げます。

被災地の1日も早い復旧と復興をお祈り申し上げます。

なお、キリンビール社をはじめとした当社グループ会社においても、製造・物流・販売等において震災の影響を受けましたが、おかげをもちまして順次復旧しています。

当第2四半期のわが国経済は、東日本大震災の影響により生産面を中心に下押し圧力が続いているものの、供給面での制約は徐々に緩和してきており、個人の消費マインドも改善しつつあるといえます。このような状況の中、キリングroupでは長期経営構想「キリン・グループ・ビジョン(KV2015)」実現に向けた第2ステージである「2010-12年キリングroup中期経営計画」の2年目として、質的拡大に向けた取り組みを強化しました。

KV2015グループビジョン

- いつもお客様の近くで様々な「絆」を育み、「食と健康」のよろこびを提供する
- 「発酵・バイオ」「モノづくり」「リサーチ・マーケティング」の技術を総合し、独自の価値と最上の品質を追求する
- 酒類・飲料・医薬を主力事業として、アジア・オセアニアのリーディングカンパニーを目指す

成長へのシナリオ

国内酒類事業の
再成長により
基盤を強化

① 総合飲料グループ
戦略の推進

② 国際化の推進

③ 酒類、飲料、医薬に
次ぐ健康・機能性
食品事業の構築

国内酒類、飲料事業における震災後の着実な販売回復に加え、 医薬・バイオケミカル事業が好調に推移するなど、グループ全体で堅調な業績を達成

国内においては、引き続き麒麟ビール社、麒麟ビバレッジ社を中心に総合飲料グループ戦略を推進するとともに、機能別に組織されたクロス・カンパニー・チーム主導のもと、グループ横断で一層の収益性と効率性向上を図りました。またメルシャン社では、経営資源をワイン・酒類事業に集中すべく、医薬・化学品事業の譲渡を決定しました。

海外では、華潤創業有限公司と中国における清涼飲料事業に関する合併会社設立に合意したほか、ベトナム飲料製造・販売会社であるインターフード社の株式取得を完了。今後急速な成長が見込まれる中国・東南アジアの清涼飲料

市場での事業強化を進めています。

さらに、8月には、ブラジルでビール事業および清涼飲料事業を展開するスキンカリオール・グループの株式の50.45%を取得し、これまで当社が構築してきたアジア・オセアニアでの事業基盤に加え、新たに、成長著しいブラジルでの足掛かりを獲得しました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は前年同期比0.9%減の1兆14億円、営業利益は前年同期比21.7%増の728億円、経常利益は前年同期比28.9%増の725億円、四半期純利益は169億円の特別損失を東日本大震災関連損失として計上しましたが、前年同期比150.7%

増の179億円となりました。なお、当第2四半期の配当については13.5円としました。年間では27円を予定しています。

第3四半期以降も、引き続き“質的拡大”に取り組み、国内外でお客様のニーズに応える新たな価値を提供していきます。

東日本大震災の被災地への 長期的な支援を決定

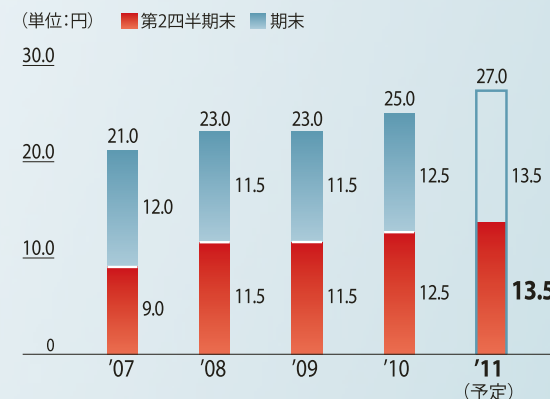
なお、麒麟グループは、東日本大震災の被災地への支援を、グループをあげて継続的に取り組んでいきます。その復興支援活動を「復興応援 キリン絆プロジェクト」とし、グループ統一のスローガンを掲げ、グループ各社が一体となって支援活動を進めていきます。(→詳細はP7-8の特集をご参照ください)

当第2四半期の業績と通期業績予想および2012年計画・2015年目標水準

	当第2四半期	前年同期比	2011年業績予想*	2012年計画	2015年目標水準
売上高 (酒税込み)	1兆14億円	△0.9%	2兆1,100億円	2兆1,300億円 (酒税抜き)	2兆5,000億円 (酒税抜き)
営業利益 (のれん等償却前)	957億円	20.1%	1,913億円	2,310億円	—
営業利益 (のれん等償却後)	728億円	21.7%	1,440億円	1,880億円	2,500億円

※各事業の進捗と為替レートの見直しを加味した結果、通期業績予想を修正しております(8月5日に開示)。
また、8月に取得したスキンカリオール・グループの連結子会社化による影響は加味しておりません。

1株当たり配当金



キリンビール社

1

January

「キリンのどごし(生)」が、6連覇達成!

「キリン のどごし(生)」は、昨年、過去最高^{*1}の4,729万ケースの販売を記録し、当社は「その他の醸造酒(発泡性)①」カテゴリーにおいて、6年連続売上げNo.1^{*2}を達成しました。

^{*1}:2005年「のどごし(生)」発売以後、年別累計販売数量による

^{*2}:2005年「その他の雑酒②」、2006年~2010年「その他の醸造酒(発泡性)①」課税出荷数量による



2

February

“濃い味”と“糖質ゼロ”を同時に実現した新ジャンルを発売

拡大が続く新ジャンルカテゴリーで“濃い味”と“糖質ゼロ”^{*}を同時に実現した新提案「キリン 濃い味(糖質ゼロ)」を発売しました。(震災影響により一時的に発売を休止、6月に再発売)

^{*}「糖質ゼロ」は100mlあたり糖質0.5g未満のものに表示可能。(栄養表示基準による)



6

June

「キリン アイスプラスビール」をコンビニエンスストア限定で発売

“氷を入れるとコクが引き立つ新スタイルビール”として、「キリン アイスプラスビール」を7月27日から全国のコンビニエンスストアにて数量限定で発売しました。今年は節電などの影響で例年よりも“暑さ”対策への需要が広がる事が予想される中、ビールの新しい楽しみ方を提案することで、市場全体のさらなる活性化と総需要拡大を図っています。



注目の商品

「キリンチューハイ氷結」から新シリーズが登場!

今後も拡大が見込まれるRTD^{*}市場では、アル

コール3%以下のソフトカテゴリーが20代の若者や30代の女性を中心に支持され、近年拡大しています。また、20代30代では「甘さ・果汁感の強さ」という味覚への期待や、「カロリーが低い」など機能面への期待も高くなっています。

^{*}Ready to Drinkの略。栓を開けてそのまま飲める低アルコール飲料

「キリンチューハイ 氷結やさしい果実の3%」は、拡大するソフトカテゴリーに対して、これまでの「氷結」にはない「アルコール3%・100ml当たり20kcal台・微炭酸で、こちよくやさしい」という新しい価値を提案する新シリーズです。ターゲットである20代および30代の女性から支持の高い「ピンクグレープフルーツ」と「赤ぶどう」の氷結ストレート果汁を使用し、みずみずしい果汁感がふわっと香る、やさしい飲みごこちを実現しました。



キリンビブレックス社

1
January

「キリン 午後の紅茶」の2010年販売実績が発売以来、過去最高に!
「キリン 午後の紅茶」の2010年販売実績が4,410万ケースとなり、1986年の発売以来、過去最高を記録しました。

4
April

「キリン 午後の紅茶 エスプレッソティー」リニューアル新発売
「キリン 午後の紅茶 エスプレッソティー・ブラック 無糖」新発売

「午後の紅茶 エスプレッソティー」シリーズのさらなるユーザー層拡大のため、「午後の紅茶 エスプレッソティー」をリニューアルするとともに、紅茶ならではの洗練された上品な香りと良質な苦味が楽しめる、無糖でブラックタイプの「午後の紅茶 エスプレッソティー・ブラック 無糖」を新発売し、小容量の缶紅茶市場を拡大しています。

4
April

「キリンファイア ネオ 格別ブレンド」「キリンファイア ネオ 薫るブラック」
「キリンファイア ネオ やわらかラテ」新発売

より上質な味わいが求められ、飲用スタイルも変化してきている缶コーヒー市場に、ペットボトル入りコーヒーの新提案。「キリン ファイア」は、今後も“缶コーヒーの常識を変える”というポリシーのもと、“革新し続けるコーヒーブランド”として、さらなる品質の向上と革新的な新提案をしていきます。

キリンファイア ネオ



キリン 午後の紅茶

エスプレッソティー (左)
エスプレッソティー・ブラック 無糖 (右)



炭酸カテゴリーの
ユーザーにも
「生茶」のおいしさを

注目の
商品

「生茶」ブランドの価値を、さらにカテゴリーを越えて広げ、新芽のみずみずしさを微発泡で楽しむ「生茶 ザ・スパークリング」を7月に新発売。無糖茶カテゴリーのユーザーのみならず、炭酸カテゴリーのユーザーにも「生茶」のおいしさをお楽しみいただくことで、さらなる「生茶」ブランドの強化を図っています。



キリン 生茶
ザ・スパークリング

メルシャン社

2

February

「赤ワイン成分の長期摂取による心臓の脂質代謝に関連する遺伝子の発現増強について」新発見

奈良女子大学 生活環境学部の井上裕康教授および中田理恵子講師との共同研究の結果、「ポリフェノールの一種『レスバトロール』を含む赤ワイン中の成分が、心臓の脂質代謝に関連する遺伝子の発現を増強させるため、血液中と細胞内の遊離脂肪酸のクリアランスに有効である可能性」を発見しました。

5

May



『「ワインのためのペットボトル」入りワイン』第2弾「フランジア ペットボトル」新発売

メルシャン社では、より多くのお客様にワインを楽しんでいただき、ワイン市場を拡大することを目指した容器戦略を進めています。今回、ワイン世界No.1ブランド「フランジア」750mlにペットボトルを導入。見た目のワインらしさを重視した形状で、軽くて持ちやすく、割れにくく、環境にもやさしいペットボトルです。

6

June



「セント・ハレット タティアラ」の年間販売目標を上方修正

3月に全国で新発売したオーストラリアワイン「セント・ハレット タティアラ」の年間販売目標を当初の6万5千ケースから1.5倍の10万ケースに上方修正しました。

「母の日に日本の食卓を豊かで楽しくし、家族のコミュニケーションを強くする」ワインとして「NPO法人日本マザーズ協会推奨商品」に認定頂いたこともあり、とくに母の日には多くのお客様にお楽しみいただきました。

2

February

英国ProStrakan社の買収・完全子会社化を発表

米国および欧州における販売体制の確立やグローバル開発体制の強化を狙って、英国スペシャリティファーマであるProStrakan社の子会社化を発表しました。(4月に完全子会社化)

4

April

成人T細胞白血病リンパ腫(ATL)の治療剤KW-0761 国内医薬品製造販売承認申請

成人T細胞白血病リンパ腫(ATL)^{*1}を適応症として開発中のKW-0761の国内医薬品製造販売承認を厚生労働省に申請しました。KW-0761は、当社独自の強活性抗体作製技術「POTELLIGENT®(ポテリジェント)」^{*2}を応用したヒト化モノクローナル抗体です。本剤は、当社が初めて医薬品製造販売承認申請をする抗体であり、ポテリジェント抗体としては、世界で初めての医薬品製造販売承認申請となります。

4

April

血小板造血刺激因子製剤／トロンボエチン受容体作動薬 「ロミプレート®皮下注 250μg調製用」新発売

慢性ITP^{*3}治療における新たな選択肢として、「ロミプレート®」を発売しました。慢性ITPでは、通常、血小板破壊を抑制することにより血小板数の改善を図る治療が行われますが、「ロミプレート®」は血小板産生を促進することにより血小板数の改善を図ります。

協和発酵キリン社

※1:成人T細胞白血病リンパ腫(ATL)／レトロウイルスのHTLV-1が発症に関与している末梢性T細胞腫瘍であり、国内の患者数は約2000名です。一般的に、mLSG15療法などの多剤併用化学療法が施行されますが、移植以外に治癒が期待される治療法は確立されていません。現在、移植療法が積極的に検討されています。一方、再発・再燃例に対しては、悪性リンパ腫の治療法に準じた種々の化学療法が実施されていますが、有効な治療法は確立されていません。

※2:POTELLIGENT®(ポテリジェント)／当社が独自に確立した高ADCC活性抗体作製技術です。本技術を用いることで、抗体が保有する糖鎖の中のフコースを低下させた抗体を作製できます。本技術で作製した抗体は、従来の抗体に比べて、標的細胞を極めて効率的に殺傷し、高い抗腫瘍効果を示すことが動物試験で確認されています。

※3:慢性特発性血小板減少性紫斑病



ブラジル スキンカリオール・グループの株式を取得し、グローバル展開を加速。

当社は、ブラジルでビール事業および清涼飲料事業を展開するスキンカリオール企業群の筆頭株主であるスキンカリオール社(以下、スキンカリオール企業群と総称して、スキンカリオール・グループ)の発行済株式総数の50.45%を保有するアレアドリ社の発行済全株式を取得しました。この投資により、これまで当社が構築してきたアジア・オセアニアでの事業基盤に加え、新たに、成長著しいブラジルでの足掛かりを獲得することで、当社の国際総合飲料グループ戦略をさらに進展させます。

当社は、長期経営構想KV2015で、アジア・オセアニアのリーディングカンパニーを目指すことを目標として掲げ、同エリアを中心とした事業戦略を推進していますが、同時に、今後のさらなる成長に向けて、新たな市場における事業展開の機会を探索していきます。

スキンカリオール・グループについて

ブラジルでトップクラスの総合飲料メーカー

スキンカリオール・グループは、「Nova Schin(ノヴァ・スキン)」、「Devassa Bem Loura(デバッサ・ベムローラ)」、「Glacial(グレイシャル)」、「Baden Baden(バーデン バーデン)」および「Eisenbahn(アイゼンバーン)」等のブランドを製造・販売するブラジル第2位のビール事業、ならびに主力ブランド「Schin(スキン)」および「Skinka(スキンカ)」等のブランドを製造・販売する清涼飲料事業(ブラジル第3位の炭酸飲料、および果実飲料・飲料水)を展開しています。また、同グループは、ブラジル全土にわたる販売網や国内13カ所の最新鋭の製造設備等、今後も高い成長が期待されるブラジルで事業展開を進めるための最適なプラットフォームを有しています。

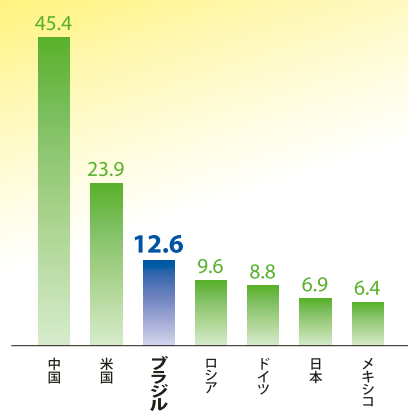


ブラジルのビール・清涼飲料市場について

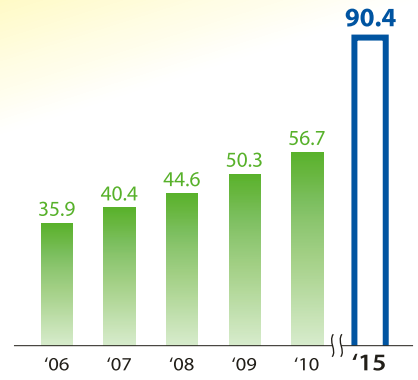
安定的な成長が見込める有望市場

ブラジルのビール・清涼飲料市場は、それぞれ3兆円近くある大規模市場で、人口増加および個人所得の増加に伴う経済発展を背景に、安定的な成長が見込める有望市場です。今回の株式取得により、南米エリア最大の経済国であるブラジルに事業基盤を獲得し、スキンカリオール・グループのもつブランドに、キリングループの技術力や商品開発力、リサーチ・マーケティング力などを導入し、同グループの成長加速を目指します。

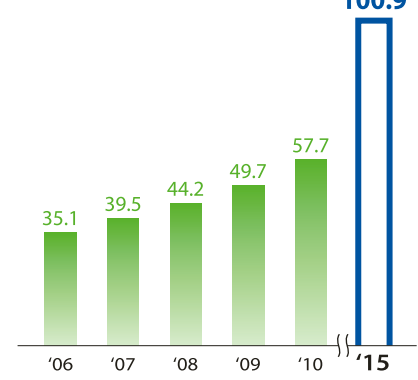
■世界の上位ビール市場 (単位:百万キロリットル)



■ブラジルビール市場の実績と成長見通し (単位:10億レアル) ※名目ベース



■清涼飲料市場の実績と成長見通し (単位:10億レアル) ※名目ベース



出所:Euromonitor

「笑顔で結ぶ。人を、日本を。」

グループ丸となって 継続的に取り組みます。

キリングループでは、東日本大震災の被災地の皆様への支援として、義援金4億円(協和発酵キリンによる1億円を含む)、飲料水約120万本(500ml換算)および食品提供などによる支援を行いました。今後もグループをあげて継続的な支援に取り組むべく、「絆を育む」をテーマに「復興応援 キリン絆プロジェクト」を立ち上げ、今後3年間で約60億円を拠出することを決定しました。

このプロジェクトによって、被災地の皆様の笑顔が日々少しずつ増え、その笑顔を通じて日本の絆が深まることを願って掲げたスローガン「笑顔で結ぶ。人を、日本を。」のもと、グループ丸となり、日本の皆様を笑顔でつなぐ支援活動を行います。

2011年度は、被災地の皆様の“地域社会や家族との絆”をより一層深めていただけるよう、「地域食文化・食産業の復興支援」「子どもの笑顔づくり支援」「心と体の元気サポート」の3つの幹で支援を開始。加えて、社員による現地でのボランティア活動も、各被災地の復旧状況に応じて引き続き行ってまいります。

3つの幹の復興支援活動について(2011年度)

1 地域食文化・ 食産業の復興支援 (約9億円)

岩手県、宮城県、福島県では、東北の食文化や地域経済を支える農業・水産業がとりわけ大きな被害を受けています。キリングループでは、食に携わる企業としてその復興に貢献したい、との想いから、農業については「農業の復興・再生に向けた基盤整備」、水産業については「養殖業の復興・再生」などをテーマに、今後3年間にわたって継続的な支援活動を行っていく予定です。

2 子どもの 笑顔づくり支援 (約3億円)

被災地の将来の発展を支える子どもたちの学びの機会を大切にしたい、という願いから、岩手県、宮城県、福島県の地域産業復興の一翼を担う、農業高校および農業科の被災した高校生に対し、奨学金を給付します。年間計約600人に対して一人あたり最大36万円の返還義務の無い奨学金を給付し、今後3年間継続して行います。

3 心と体の 元気サポート (約6億円)

岩手県、宮城県、福島県の小学校を対象に、巡回によるサッカー教室を開催し、被災地の子どもたちにサッカーを通じてスポーツの楽しさ、心の豊かさを伝える活動を提供します。講師には元サッカー日本代表選手などを迎え、プロによる楽しく思い出に残るサッカー教室を展開するほか、使用したボールやゴールなどの備品は実施した小学校へ寄贈することで、いつでもサッカーを楽しめる機会や場づくりに貢献します。なお、今後3年間本活動を継続して行います。

1 東北産原料による商品づくりで復興に貢献

東日本大震災による地震と津波により被災したキリンビール社仙台工場では、全従業員および協力会社のみなさんが一丸となって復興作業にあたり、操業再開に向けて本格的な準備を進めました。操業再開後の初仕込みは9月26日、岩手県遠野市で採れた今夏のホップを贅沢に使用した「一番搾り とれたてホップ生ビール」からスタートします。これに加えて、「キリンチューハイ 氷結 アップルヌーヴォー」では東北産のリンゴを、「福島県会津地方新鶴地域の地ワイン新酒 白

2011」(メルシャン社)では福島産のブドウを使用し、東北の生産者の支援を通して、東北全体を応援します。さらに、グループ各社で9月中旬から11月下旬にかけて、東北地方をはじめとした全国47都道府県の食材が当たる「今こそ! 選ぼう ニッポンのうまい! 2011」キャンペーンを実施します。なお、このキャンペーンの対象商品と前述の3商品については、売上1本につき1円(ワインは10円)をキリン絆プロジェクトの一環として、東北の「食」の復興支援に活用します。

(左) 一番搾り とれたてホップ生ビール
(中) キリンチューハイ 氷結 アップルヌーヴォー
(右) 福島県会津地方新鶴地域の地ワイン 新酒 白2011



2 サッカー日本代表とともに復興応援

キリンビール社では、キリンビバレッジ社と共同で、サッカー日本代表とともに震災復興を支援する「サッカー日本代表 震災復興応援企画」を6月から実施しています。その企画の一環で「サッカー日本代表 震災復興応援デザイン缶パック」や「サッカー日本代表応援缶」を発売し、1本あたり1円を集計し、その総額を震災の復興支援に活用しています。11月の「サッカー日本代表応援缶(第2弾)」でも1本あたり1円を集計し、合計5.5億円をサッカーを通じた復興支援に活用します。



サッカー日本代表
震災復興応援デザイン缶パック
麒麟 淡麗(生)



サッカー日本代表
震災復興応援デザイン缶パック
淡麗グリーンラベル



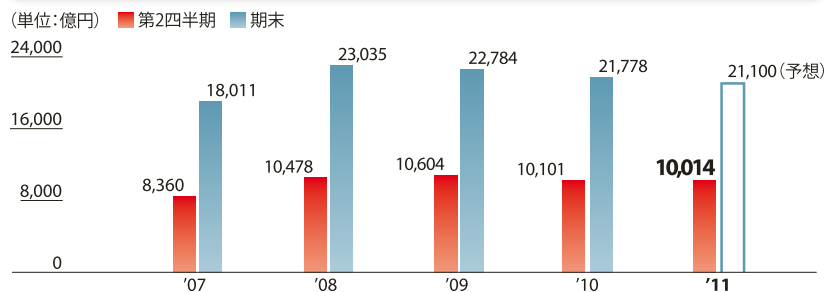
キリングroup TVCMに「なでしこジャパン」を起用!

キリングroupは、TVCMに今回のFIFA女子ワールドカップ ドイツ2011で見事優勝した「なでしこジャパン」(サッカー日本女子代表)を起用しました。ワールドカップ優勝という結果で日本に勇気と感動を与えてくれた「なでしこジャパン」への感謝メッセージ、また、「なでしこジャパン」が懸命にプレーするシーンを通じて、キリングroupがサッカー日本代表とともに「日本の震災復興を応援します」という企業メッセージを発信しています。

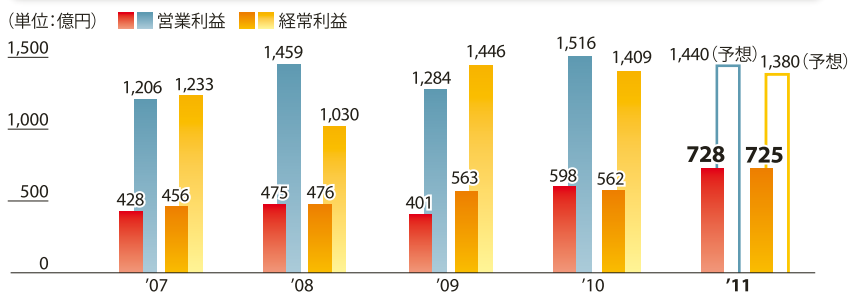
TOPICS

■ 当期の財務ハイライト

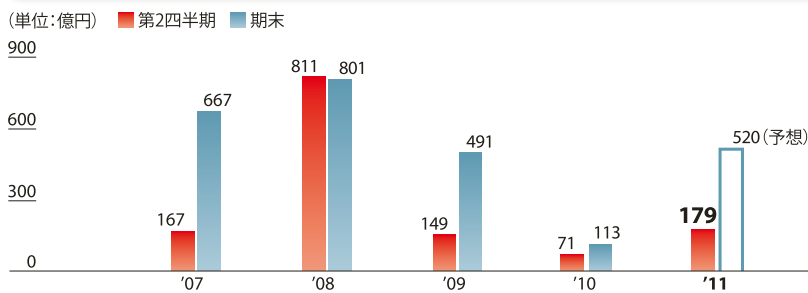
連結売上高



連結営業利益・連結経常利益

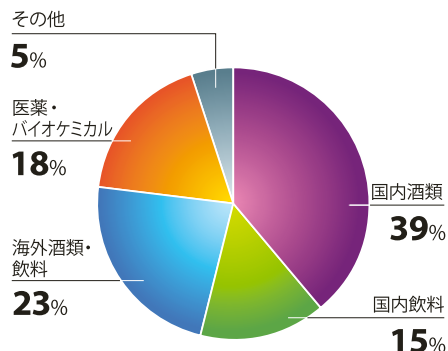


連結四半期(当期)純利益



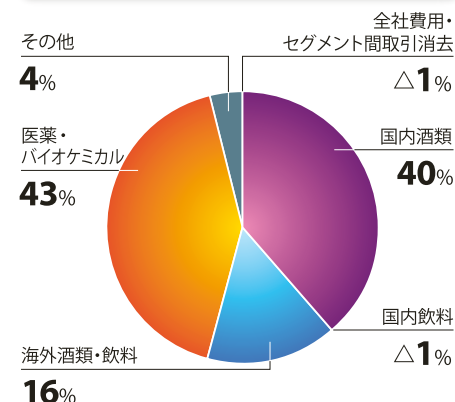
■ セグメント別の状況

セグメント別売上高



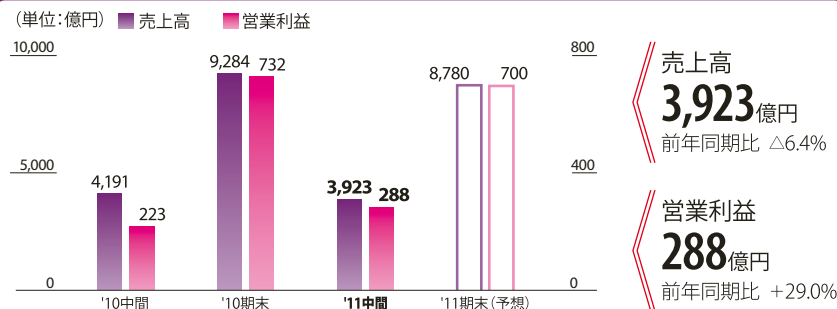
※2011年第2四半期の実績

セグメント別営業利益



※2011年第2四半期の実績

国内酒類事業

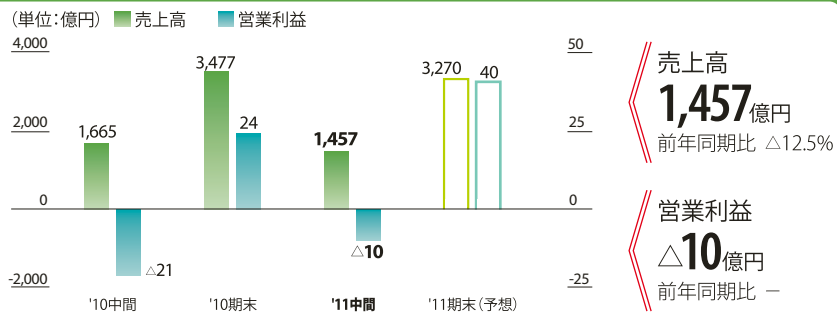


震災影響による販売減少はあるも営業増益

キリンビール社では、定番商品のさらなる強化と新ジャンルカテゴリーにおける新たな健康志向商品の需要拡大に加え、RTD市場での一層のプレゼンス向上に努めたほか、メルシャン社では、ライオン社※1傘下のワイナリーと共同開発した「セント・ハレット タティアラ」が年間計画を上方修正するなど好調に推移。東日本大震災による一部工場の製造停止や資材調達、物流上の制約などもあり、売上高は減少しましたが、営業利益は増加しました。

※1:ライオンネイサン ナショナルフーズ社は、5月にライオン社に社名を変更しております。

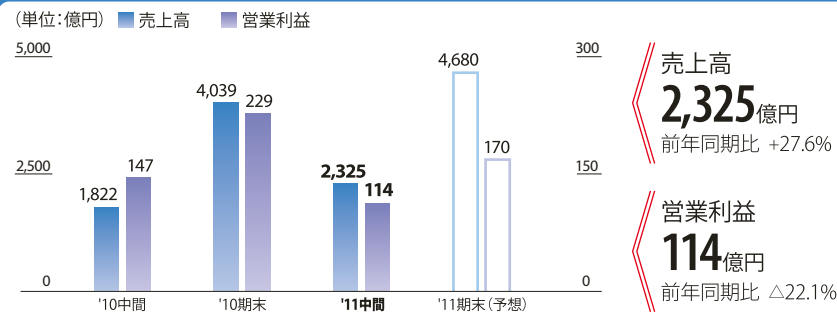
国内飲料事業



「キリン午後の紅茶」等、基盤ブランドの好調により営業損益改善

キリンビバレッジ社は、引き続き商品力・営業力の強化と継続的な収益構造改革による成長力の再構築を推進。基盤ブランドである「キリン午後の紅茶」では定番3アイテムと、新たにラインアップしたエスプレッソティーシリーズが好調に推移し、紅茶市場の成長を牽引しました。「キリン ファイア」では、「挽きたて」シリーズが好調だったほか、「コーヒーを携帯する」という新スタイルを提案する「ファイア ネオ」シリーズも加わり、コーヒー市場を活性化しました。これらの結果、売上高は減少しましたが、営業損益は改善しました。

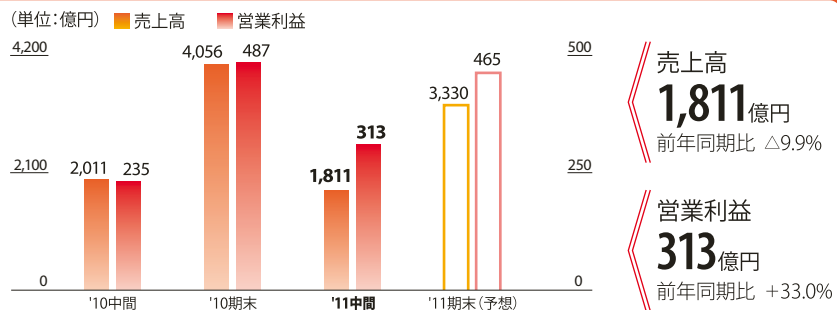
海外酒類・飲料事業



厳しい市場環境が続き営業減益

豪州ライオン社では、酒類、飲料事業ともに、引き続きブランド力強化を重視した事業経営を推進し、一層の収益性と効率性の向上に努めました。一方、最需要期の夏季に気温が低かったことやクイーンズランド州での洪水、ニュージーランドでの地震等々の天災に加え、飲料事業における消費者の低価格志向や一部プライベートブランドの受託契約変更等の影響により、売上高は増加しましたが、営業利益は減少しました。

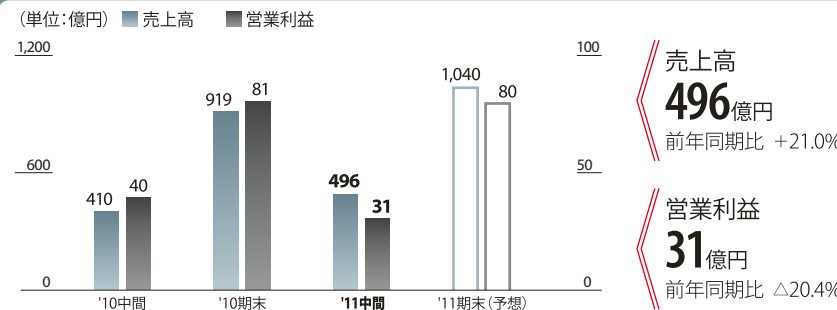
医薬・バイオケミカル事業



医薬事業の好調などにより、営業増益

医薬事業では、協和発酵キリン社において、腎性貧血治療剤「ネスブ」、透析における合併症のひとつである二次性副甲状腺機能亢進症治療剤「レグパラ」が伸張したほか、花粉飛散量増加により抗アレルギー剤「アレロック」が好調でした。バイオケミカル事業では、協和発酵バイオ社において、医薬・工業用原料が円高による影響を受けましたが、海外向輸液用アミノ酸などの販売が好調でした。これらの結果、売上高は減少しましたが、営業利益は増加しました^{※2}。

その他事業



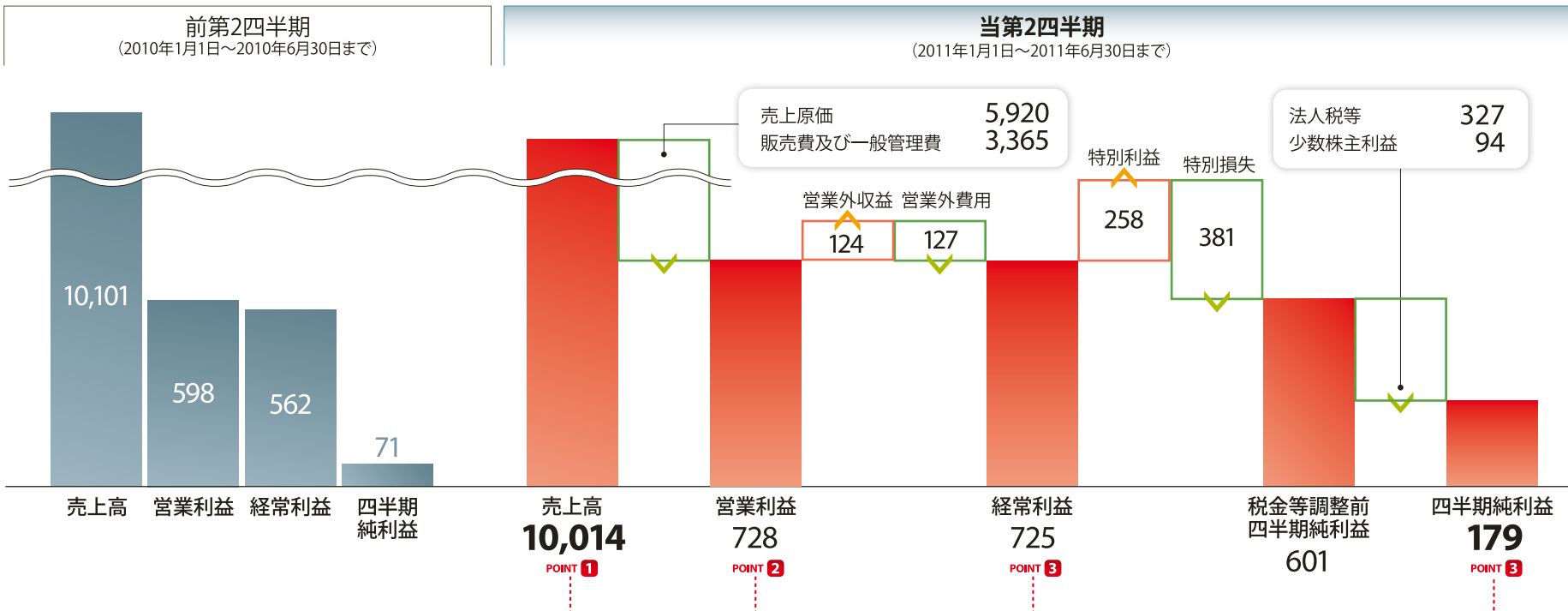
開発・営業体制の強化に取り組み、売上高が増加（キリン協和フーズ社）

キリン協和フーズ社では、引き続き価値提案型の開発・営業体制を強化するとともに、お客様のニーズに応える製品・サービスの提供に努めました。これらの結果、売上高は増加しましたが、営業利益は減少しました。

※2:協和発酵キリン社は、3月に同社が保有する協和発酵ケミカル社の全株式を譲渡しており、化学品事業の業績は第1四半期連結会計期間のみが含まれています。

連結損益計算書の概要

(単位:億円)



(単位:億円)

前期 (2010年1月1日~2010年12月31日まで)	
売上高	21,778
営業利益	1,516
経常利益	1,409
当期純利益	113

POINT 1 売上高

主に国内酒類事業、国内飲料事業が東日本大震災の影響を受けたこと等により減少しました。

POINT 2 営業利益

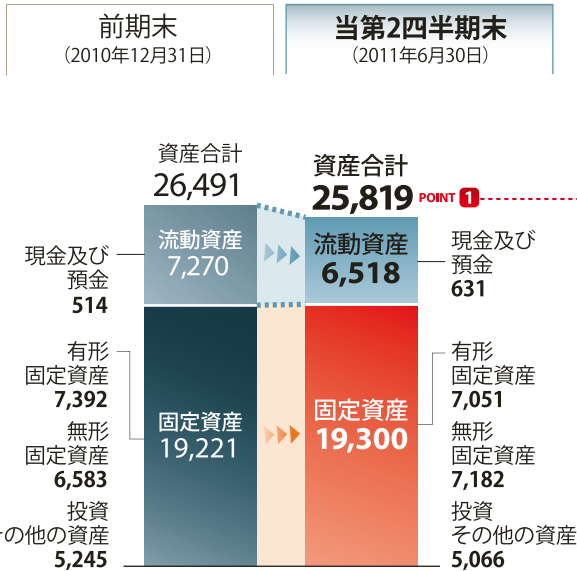
グループを挙げたコスト削減、収益性向上に向けた取り組みや、協和発酵キリン社の主力医薬品の販売が好調だったこと等により増加しました。

POINT 3 経常利益・
四半期純利益

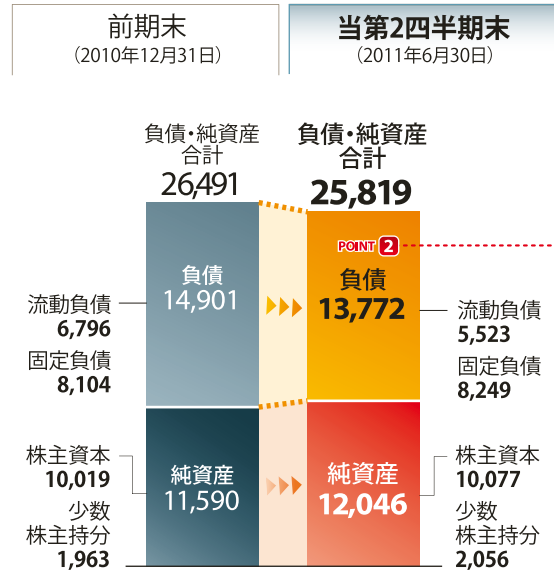
特別損失に東日本大震災関連損失を計上しましたが、特別利益に固定資産売却益を計上したこと等により増加しました。

連結貸借対照表の概要

(単位:億円)



(単位:億円)



POINT 1 資産

主に受取手形及び売掛金の減少の他、協和発酵キリン社の化学品事業売却による有形固定資産の減少等により672億円減少しました。

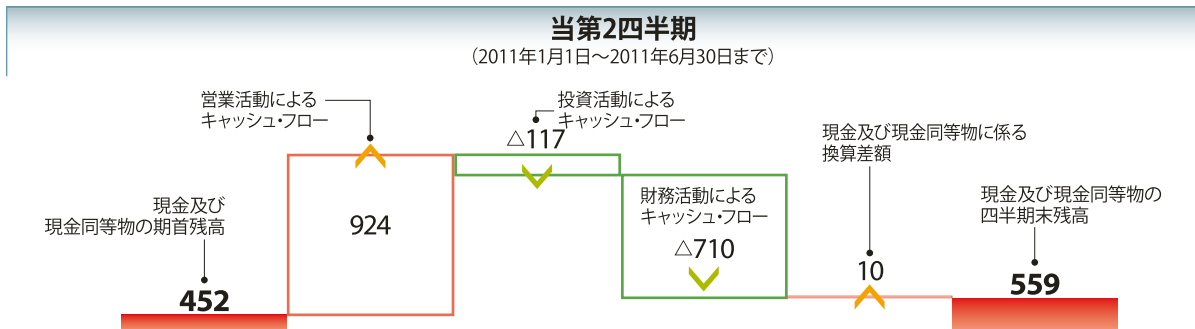
POINT 2 負債

主に借入金返済による有利子負債の減少や協和発酵キリン社の化学品事業売却による支払手形及び買掛金の減少等により、1,128億円減少しました。

連結キャッシュ・フロー計算書の概要

POINT 1

(単位:億円)



POINT 1 連結キャッシュ・フロー計算書

営業活動によるキャッシュ・フローは、売上債権の減少等により924億円の収入となりました。投資活動によるキャッシュ・フローは、主に有形及び無形固定資産の取得により117億円の支出となりました。財務活動によるキャッシュ・フローは、主に長期借入金の返済により710億円の支出となりました。

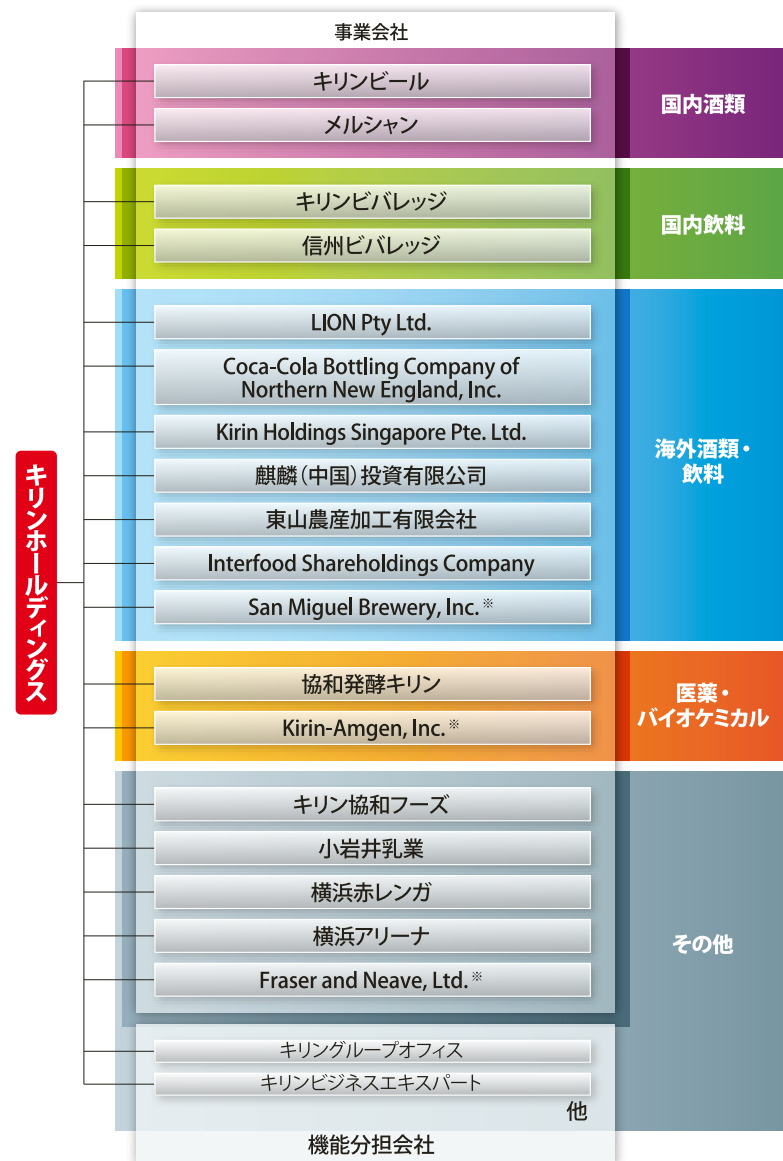
会社概要 (2011年6月30日現在)

商号	キリンホールディングス株式会社
設立	1907年(明治40年)2月23日 ※2007年7月1日純粋持株会社化に伴い、「麒麟麦酒株式会社」より商号変更
資本金	102,045,793,357円
従業員数	242人(キリンホールディングス連結従業員数:31,725人)
本社所在地	〒104-8288 東京都中央区新川二丁目10番1号 TEL 03(5541)5321(代表)
売上高	2,177,802百万円(2010年12月期キリンホールディングス連結業績)
主な事業	グループの経営戦略・経営管理ならびに専門サービスの提供

役員 (2011年6月30日現在)

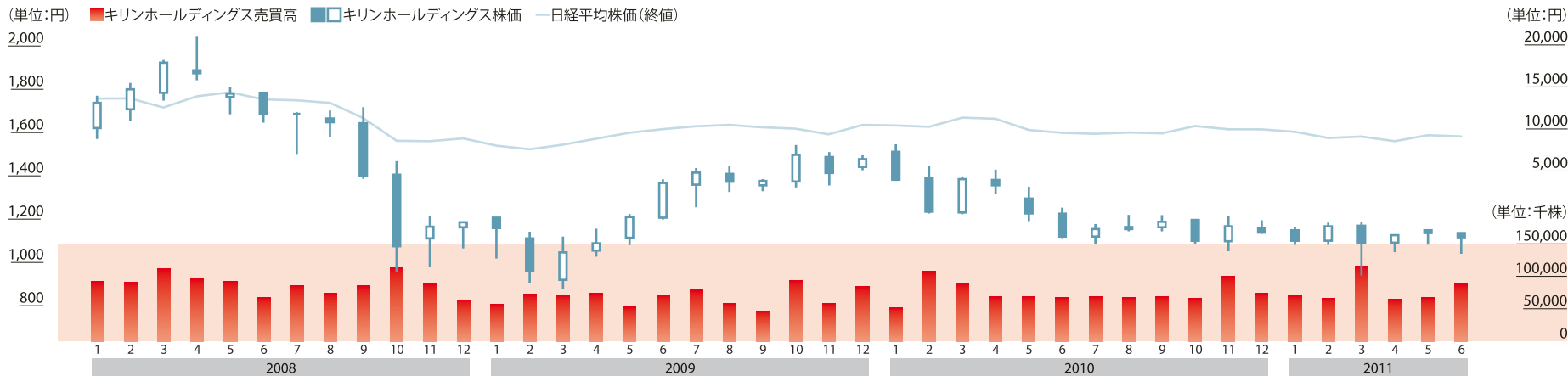
取締役会長	加藤 壹康	取締役	三木 繁光
代表取締役社長	三宅 占二	取締役	有馬 利男
代表取締役常務取締役	古元 良治	常勤監査役	鈴庄 一喜
常務取締役	磯崎 功典	常勤監査役	百武 直樹
常務取締役	小林 弘武	監査役	尾崎 輝郎
常務取締役	中島 肇	監査役	手塚 一男
常務取締役	小川 洋	監査役	大根田 伸行

グループ会社一覧 (2011年6月30日現在)

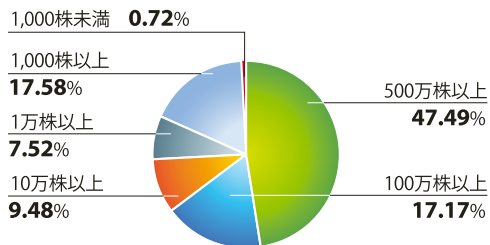


※持分法適用会社

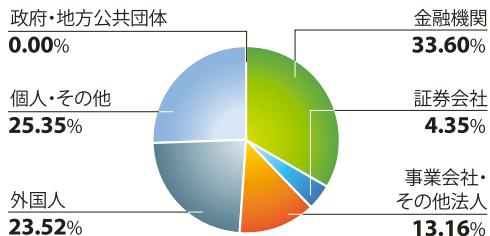
日経平均株価・株価・売買高の推移 (東京証券取引所)



所有株数別分布状況



所有者別分布状況



発行済株式総数 965,000,000株

株主数 137,962名

大株主 (千株未満を切り捨て、小数点以下第3位を切り捨て)

株主名	所有株式数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	49,113	5.08
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	47,175	4.88
明治安田生命保険相互会社	35,046	3.63
株式会社磯野商会	23,272	2.41
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4)	19,406	2.01
株式会社三菱東京UFJ銀行	19,251	1.99
SSBT OD05 OMNIBUS ACCOUNT-TREATY CLIENTS	16,750	1.73
メロンバンク エヌエートリーティー クライアント オムニバス	14,316	1.48
ノーザントラストカンパニー(エイブイエフシー) サブアカウント プリティッシュクライアント	13,113	1.35
野村信託銀行株式会社(退職給付信託・三菱UFJ信託銀行口)	11,621	1.20

株主ご優待について

1年に1回、12月末時点において単元株(1000株)以上を保有する株主様にキリングループ商品等のご優待品をお贈りしています。詳細につきましては、キリンホールディングスのホームページ(www.kirinholdings.co.jp)、もしくは、毎年3月初旬に対象の株主様宛に送付される「定時株主総会招集ご通知」に優待申込書が同封されていますのでご確認ください。

株主メモ

株式に関する手続きについて

1. 証券会社等の口座に記録された株式

証券会社等の口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、一部を除き原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっておりますので、口座を開設されている証券会社等にお問合せください。

お手続き、ご照会の内容	お問合せ先	
<ul style="list-style-type: none"> ● 郵送物の発送と返戻に関するご照会 ● 支払期間経過後の配当金に関するご照会 ● 株式事務に関する一般的なお問合せ 	株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 ☎ 0120-232-711（平日9:00-17:00）
● 上記以外のお手続き、ご照会等	口座を開設されている証券会社等にお問合せください。	

2. 特別口座に記録された株式

特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、下記連絡先までお問合せください。

お手続き、ご照会の内容	お問合せ先	
<ul style="list-style-type: none"> ● 特別口座から一般口座への振替請求 ● 単元未満株式の買取・買増請求 ● 住所・氏名等のご変更 ● 特別口座の残高照会 ● 配当金の受領方法の指定※ 	特別口座の 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 ☎ 0120-232-711（平日9:00-17:00） 手続き用紙のご請求方法 音声自動応答電話によるご請求 ☎ 0120-244-479 インターネットによるダウンロード http://www.tr.mufg.jp/daikou/
<ul style="list-style-type: none"> ● 郵送物等の発送と返戻に関するご照会 ● 支払期間経過後の配当金に関するご照会 ● 株式事務に関する一般的なお問合せ 	株主名簿管理人	

※特別口座に記録された株式をご所有の株主様は配当金の受領方法として株式数比例配分方式はお選びいただけません。

事業年度	1月1日から12月31日まで
株主確定日	定時株主総会・期末配当金12月31日 中間配当金6月30日
定時株主総会	3月下旬開催
株主名簿管理人 特別口座の 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 ☎ 0120-232-711（平日9:00-17:00）
公告の方法	電子公告により行います。但し、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。 公告掲載URL http://www.kirinholdings.co.jp/
証券コード	2503

